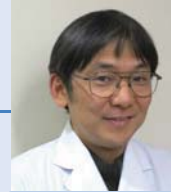


# 血液中の腎不全進展因子の低下

■ 東京女子医科大学 腎臓病総合医療センター 兼  
付属青山自然医療研究所クリニック 准教授 川嶋 朗 先生  
■ 第 49 回 日本腎臓学会学術総会 ( 2006 ) にて発表



川嶋 朗先生

## 【目的】

維持透析患者に対する『乳酸菌生成エキス』の血中インドキシル硫酸、その他に及ぼす影響を検討し、保存期腎不全への応用の可能性を探る。

## 【方法】

維持透析患者4名(男性/女性=2/2,平均年齢58歳,平均透析歴17年)に1日1回『乳酸菌生成エキス』を1年間投与し、その前後で血中インドキシル硫酸、BUN、P、K、Ca、Crを測定した。

## 【結果】

尿毒素の1つであるインドキシル硫酸の数値が有意に低下していた。その他、BUN、Pは有意に低下していた。(Fig.1~3.)ほかK、Ca、Crでは、有意な差は見られなかった。

## 【考察】

『乳酸菌生成エキス』が、腸管における尿毒素の産生を低下させていると考えられる。『乳酸菌生成エキス』は、維持透析患者におけるタンパク質代謝を改善している可能性がある。『乳酸菌生成エキス』は、保存期腎不全のコントロールに有用な可能性が示唆された。

## 【川嶋 朗先生のコメント】

透析患者に対する飲用効果をテストした結果、透析患者の血中のインドキシル硫酸が、効果的におさえられています。これは尿毒素であるインドキシル硫酸の血中への移行が抑制されていることを意味します。

つまり慢性腎不全の進行が抑制される可能性があるわけです。このメカニズムとして、『乳酸菌生成エキス』が、腸内のインドール系毒素の産生をおさえられていることが考えられます。

以上の結果から、『乳酸菌生成エキス』の慢性腎不全の保存期に有用な可能性が示唆されました。

Fig.1. 血中インドキシル硫酸の変化

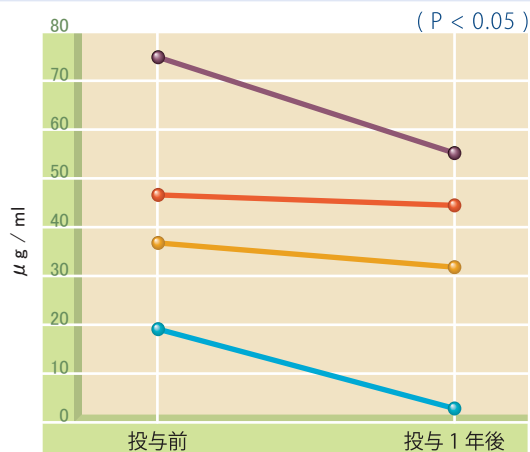


Fig.2. 血中 BUN の変化

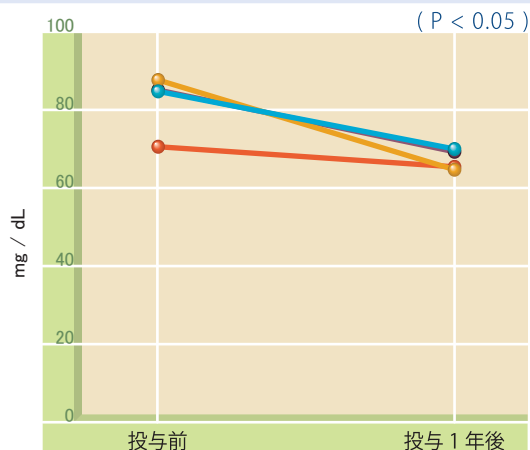
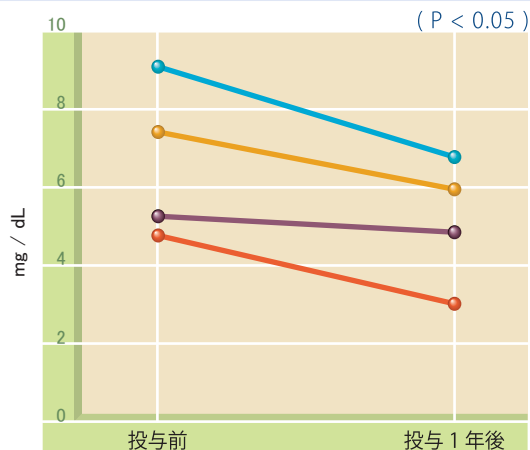


Fig.3. 血中 P の変化



\* インドキシル硫酸 : インドールが硫酸化した化合物。インドールが肝臓で硫酸化されて合成される。尿毒症毒素の原因物質といわれる。基準値1.87 μg/mL以下  
\* BUN=尿素窒素 : 基準値8~20mg/dL  
\* P=無機リン : 基準値は成人で2.5~4.5mg/dl